

2019 年度 第 68 回 大学院セミナー

令和 2 年 1 月 8 日

講座名 (責任者名)(内線)	地域医療学分野 責任者名(前田隆浩) 内線(7189)
演題	疫学観察研究における交絡をコントロールする
講師等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 国際離島医療学分野/国際島嶼医療学講座 教授 嶽崎 俊郎 先生
概要	人を対象にする観察研究において、選択バイアスと交絡は避けて通れない制限事項であり、その影響を出来るだけ小さくするためのデザインや解析方法が求められる。交絡をコントロールするためには、症例と対照のマッチングや層別化、多変量解析による調整が用いられる。さらに、propensity score を用いた調整も可能である。propensity score は、臨床研究における疑似 RCT のためのマッチングに用いられることが多い。基本的な考え方は、対象者の背景要因の影響を確率として見積もったスコアを用いて、マッチングや調整を行う際にバランスを取ることで、交絡要因の影響を小さくすることである。本セミナーでは、疫学観察研究における交絡をコントロールする方法について、これまで学んできたことの復習を兼ねて、まとめてみたい。
開催日時	令和 2 年 1 月 16 日(木) 18:00~19:30
場所	良順会館 専斎ホール
備考	

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語